

グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアティブ

(トリプルI)

国内関係者向けネットワーキング・セミナー

2025年3月25日(火)

結果報告書

目次

1. プログラム	3
2. 第1部 セミナー	5
2-1. 開会挨拶：渋澤健（共同議長）	5
2-2. Triple I のこれまでの取組：三浦聡（内閣官房健康・医療戦略室）	5
2-3. パートナー機関による取組・事例紹介	6
2-3-1. 半田滋（AAIC Investment Pte. Ltd., Director）	6
2-3-2. Jonathan Dean（アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社, Head of Fund Management）	6
2-3-3. Francesco Saverio Ambrogetti（UNICEF, Principal Advisor）	7
2-3-4. Swathi Rao Chillara（Health Finance Coalition, Senior Manager）	7
2-3-5. 三浦麗理（SIIF インパクトキャピタル株式会社代表パートナー）	8
2-4. パートナー機関によるコメント	8
2-5. 省庁・関係機関によるコメント	9
2-5-1. 高橋順子（JICA 企画部次長）	9
2-5-2. 長谷部綾子（金融庁総合政策局総合政策課サステナブルファイナンス推進室課長補佐）	10
2-5-3. 里貴之（経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課課長補佐）	10
2-6. 全体質疑	10
2-7. 総括：渋澤健（共同議長）	11
2-8. 閉会挨拶：鈴木秀生（内閣官房健康・医療戦略室国際保健担当大使）	12
3. 第2部 ネットワーキング・レセプション	12
3-1. 挨拶：友納理緒（内閣府大臣政務官）	12
3-2. 挨拶：Francesco Saverio Ambrogetti（UNICEF, Principal Advisor）	13

1. プログラム

日時 : 令和7年3月25日(火) 10:00-13:00

場所 : ザ・キャピトルホテル東急1階「鳳凰」

参加者 : 国内パートナー(含国際機関)、関係省庁ほか

言語 : 日本語及び英語(同時通訳)

時間	プログラム	発表者・所属(敬称略)
10:00	開会挨拶	渋谷健(共同議長)
10:10	Triple Iのこれまでの取組	三浦聡(内閣官房健康・医療戦略室企画官)
10:15	パートナー機関による取組・事例紹介	半田滋(AAIC Investment Pte. Ltd., Director)
10:20		Jonathan Dean(アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社, Head of Fund Management)
10:25		Francesco Saverio Ambrogetti (UNICEF, Principal Advisor)
10:30		Swathi Rao Chillara (Health Finance Coalition, Senior Manager)
10:35		三浦麗理(SIIF インパクトキャピタル株式会社代表パートナー)
10:40	パートナー機関によるコメント	出席パートナー機関
11:15	省庁・関連機関によるコメント	高橋順子(JICA 企画部部長)
11:20		長谷部綾子(金融庁総合政策局総合政策課サステナブルファイナンス推進室課長補佐)
11:25		里貴之(経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課課長補佐)
11:30	全体質疑	
11:40	総括	渋谷健(共同議長)

11:45	閉会挨拶	鈴木秀生（内閣官房健康・医療戦略室 国際保健担当大使）
12:00	ネットワーキングレセプション 挨拶	友納理緒（内閣府大臣政務官） Francesco Saverio Ambrogetti （UNICEF, Principal Advisor）

2. 第1部 セミナー

2-1. 開会挨拶：渋澤健（共同議長）



開会挨拶において、渋澤健共同議長は、Triple I for Global Health が2年前の広島G7で承認された後、新たな資金の動員、インパクト測定（IMM）、政策提言の3つを柱に活動を展開してきたことを説明し、民間が積極的にグローバルヘルスに投資できる機会を広げることが重要

と述べた。また、インパクト測定については、環境分野のCO₂換算に相当する明確な基準を設けることが難しい現状ではあるが、共通認識を醸成することが必要であることを強調した。さらに、現在の世界情勢は1年半前と大きく変化し、グローバルヘルス資金調達環境が非常に厳しくなっている一方で、Triple Iのパートナー数が37から107に増加し、同イニシアティブへの関心が高まっていること、Triple IがIMMの実務者ガイド作成などを通じ、グローバルヘルス分野での新たな成長を促すことを願っている旨が述べられた。

2-2. Triple Iのこれまでの取組：三浦聡（内閣官房健康・医療戦略室）



三浦聡企画官より、Triple Iの進捗状況として、パートナー数が当初の37から107へ大幅に増加し、五大陸の幅広いセクターが参加している旨の報告がなされた。また、ニューヨークの国連総会やダボス会議等で共同議長が積極的にインパクト投資の重要性を発信したこと、今後はパートナー

同士の連携強化や情報共有を目的にウェブサイトの改善、報告手法の効率化を進める方針であることが示された。さらに、Triple Iパートナーの2023年の約190件の投資案件の分析においては、民間資金が80%を占め、アフリカやインドなどで医療や衛生の分野に大きなインパクトをもたらしたことが伝えられたほか、Triple Iはイ

ンパクト投資の認知向上、IMM ガイドライン作成、政策発信という 3 つの柱を引き続き推進していく旨述べられた。

2-3. パートナー機関による取組・事例紹介

2-3-1. 半田滋 (AAIC Investment Pte. Ltd., Director)



半田氏より、同社がアフリカのヘルスケア分野で約 100 億円規模のファンドを運営し、55 社に投資を行っていることが報告された。特に、日本企業と現地スタートアップが協働し、医薬品流通のデジタル化や遠隔診断の導入などを通じて社会的インパクトと収益性、規模拡大（スケールアップ）の両立を実現している事例が紹介された。また、エジプトの遠隔読影サービスやケニアの注射器製造工場など具体的な成功例とともに、日本企業との協働による製造業・物流分野の付加価値向上と雇用創出への効果が説明され、ベンチャー・キャピタル（VC）は、現地市場の情報提供や企業間連携促進の役割を果たすことが出来るとして、積極的な活用を呼び掛けた。

2-3-2. Jonathan Dean (アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社, Head of Fund Management)



Jonathan Dean 氏は、同社が 10 年以上前からグローバルヘルス分野への投資を行い、財務的なりターンと社会的インパクトの両立を目指していること、特に先進国の医療イノベーションを途上国市場に展開する際、製品が低コスト、操作が簡単、耐久性が高く、臨床的に優れていることが重要である旨説明した。また、保険会社や年金基金など、機関投資家の大規模な資本を動員し、母子保健、視覚障害、感染症、慢性疾患等の特に資金不足が深刻な分野に投資を集中させている旨述べ、具体例として、産後出血を防ぐ医療機器の開発・普及に成功した企業 Alydia を挙げ、この製品が実際に世界 4 大陸で 8 万回以上使

用され、妊婦の命を救うとともに、投資家にも魅力的な収益をもたらし、社会的インパクトと収益性の両立を達成したと紹介した。

2-3-3. Francesco Saverio Ambrogetti (UNICEF, Principal Advisor)



Francesco 氏は、グローバルヘルス分野で公的資金への依存が限界に達する中、インパクト投資による民間資金の動員が重要になっていると指摘し、UNICEF は世界の子どもの約半数にワクチン接種を行っているが、未だに「ゼロ回接種」の子どもが多く存在し、これらの子どもたちは高い死亡リスクや感染症拡大の原因になると説明した。また、社会的インパクトを測定する IMM の重要性を強調し、具体例として、子どもへの悪影響を最小限に抑えつつ、子どもにとって有益な結果をもたらす投資基準「Child Lens Investment Framework」が紹介された。さらに、欧州投資銀行が5億ドルを融資し、UNICEF が大量購入したワクチンでポリオ撲滅を進める取組を紹介するとともに、具体的な成果指標に応じて投資リターンが決まる仕組みが効果的であると報告し、今後も投資効果の測定を明確にすることが民間資金を引き付ける鍵になるという考えを示した。

2-3-4. Swathi Rao Chillara (Health Finance Coalition, Senior Manager)



Swathi 氏は、世界のヘルスケア分野における資金不足を解消するため、Health Finance Coalition (HFC) が革新的な資金調達と企業の投資適格性向上に取り組んでいることを紹介するとともに、HFC が2020年から活動し、現在までに3億4千万ドル以上の資金を動員し、50万人以上の患者に恩恵を与えたことを報告した。特に、地域マラリア撲滅基金（1億8300万ドル）、Open Doors African Private Healthcare Initiative（3000万ド

ル)、Transform Health Fund (1億1100万ドル)の3つのファンドを設立したこと、Transform Health Fundでは、ファンドのパイプラインに供給するための投資に適した案件創出の支援を行う Deal Construction プラットフォームによって、リスクを取った柔軟な投資により多様な資金源を創出している旨述べた。また、モザンビークの生理用品企業 BeGirl や南アフリカの医療クリニック Unjani Clinic、アフリカ6か国で展開する眼鏡販売企業 Lapair など具体的な企業支援事例を示し、資金調達や社会的インパクト創出に成功したこと、また、リスク軽減メカニズムの導入により、より多くの投資を実現する新たな取組を行っていることも紹介した。

2-3-5. 三浦麗理 (SIIF インパクトキャピタル株式会社代表パートナー)



三浦氏は、2023年に組成された SIIFIC Wellness Fund が、「誰もがよりよく生きられる社会 (Wellness Equity)」の実現に取り組んでいること、また、同ファンドが37億円規模で、インパクト投資を通じて社会的価値と経済的リターンの両立を目指しており、政府・財団・機関投資家など幅広い出資者から資金提供を受けている旨述べた。さらに、システム・マップから Theory of Change を設定することで、投資先が社会課題解決に与えるインパクトを可視化していることを報告し、具体例として、患者の尊厳や生活の質 (QOL) 向上を重視したがん治療を開発するベンチャー企業「J-Pharma」への投資事例を紹介した。三浦氏は、これら日本での取組が将来グローバルな課題解決にも繋がるとの考えを示し、資本を通じて社会システム全体の変革を目指すとした。

2-4. パートナー機関によるコメント

本セッションでは、ヘルスケア分野におけるインパクト投資の実践や展望について、多様な立場から具体的な事例と課題が共有された。診断機器や AI 技術を活用し、アフリカやインドで結核診断の普及を目指す取組や、HIV や COVID-19 の治療薬開発を通じた新規事業への挑戦が報告された。また、プライマリーケアや地域密

着型の保健支援に長年携わる中で、デジタル技術導入の困難さを指摘し、今後の支援に対する期待が表明された。

一方、機関投資家とインパクトファンドの橋渡しを担う立場からは、社会的価値と経済的利益の両立が鍵であるとの指摘があった。現地企業の成長や安価な製品供給を促進することで、NGO 活動の波及効果も生まれているとの報告もあり、民間投資と市民社会の好循環が示唆された。顧みられない熱帯病の分野では、製薬会社が製品提供とともに民間投資家との連携機会を模索しており、社会的インパクトの可視化の重要性が強調された。

大腸がん検査や新規診断技術を通じた医療アクセス向上の取組、ジェンダーに配慮したデジタルヘルスの展開、アフリカにおけるスタートアップ支援など、多様なテーマが扱われた。評価手法の確立とともに、リスク対応力や収益性の両立が今後の課題であるとの共通認識が形成された。さらに、mRNA 技術の低中所得国展開、テクノロジーによる医療アクセス改善など、技術革新を基盤とするアプローチも紹介された。これらの発表を通じて、Triple I の枠組みが多様な主体の連携を促しつつ、実践的課題に対処するための重要な場であることが改めて確認された。

2-5. 省庁・関係機関によるコメント

2-5-1. 高橋順子（JICA 企画部次長）

高橋氏は、JICA は政府開発援助（ODA）の実施機関として公的セクター向けの資金協力や技術協力支援では途上国の感染症対策や母子保健、医療システムの強化に取り組むとともに、民間セクター向けの投融資では医療施設整備等を行ってきたことを説明した。特にブラジルの医療アクセス改善事業では、医療アクセスが困難な低中所得者層向けに AI を活用した効率的な医療提供等を支援したと紹介した。今後、ブレンデッド・ファイナンスを通じて官民のコレクティブ・インパクト創出にさらに貢献していくと述べた。

2-5-2. 長谷部綾子（金融庁総合政策局総合政策課サステナブルファイナンス推進室課長補佐）

長谷部氏は、同庁がサステナブルファイナンスおよびインパクト投資推進に取り組んでいると述べ、2024年3月に基本的指針を策定し、官民連携の「インパクトコンソーシアム」を設立したことを報告した。今後、インパクト投資の具体的な事例や知見の共有を進め、企業価値やリターンと結びつけることで、幅広い金融機関の参加拡大を目指す考えを示した。

2-5-3. 里貴之（経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課課長補佐）

里氏は、日本国内のヘルスケア産業の国際展開促進や、グローバルサウスへの支援に取り組んでいることを報告した。特に国内のヘルスケアスタートアップが成長や国際展開の課題を抱えていると指摘し、インパクト投資の金融的枠組みを活用して、日本のヘルスケア技術を海外展開し、世界の医療課題解決に貢献することへの期待を述べた。

2-6. 全体質疑

（質問）母子保健の分野で大きな資金ギャップがあり、特に途上国が医薬品生産を増強する中で、北側諸国と南側諸国との製薬協力をどのように進めていくかについてAXAの見解を伺いたい。今後のグローバルヘルス分野においては、北と南の協力が重要であり、具体的な取組や連携方法について御意見を伺いたい。

（AXA Dean 氏）医薬品製造分野におけるグローバルな再編が進行している。公的セクターと民間セクターが協力することで、途上国の製薬業界への投資が可能となる。また、機関投資家が求めるリスク調整後のリターンを確保するためには、公的資金によるリスク軽減が不可欠であり、官民連携が数十億ドル規模の資金を動員する鍵である。

(コメント) 現場のコミュニティの実感として、母子保健分野で妊産婦死亡率が悪化している。特にセクシュアル・リプロダクティブヘルスやジェンダー分野の小規模な NGO の視点から、末端のコミュニティにサービスが届いているとの実感が伴うようなインパクトを実現していくことが重要。

(質問) 実際に投資家との対話の中で生じる機会費用に関する課題にどのように対応しているか。特に、投資家に対し、インパクトを追求することで一般的な投資より低いリターンを許容する理由をどのように説明しているのか、その対話方法や説得のポイントについて具体的に教えてほしい。

(AXA Dean 氏) インパクト投資においてリターンとインパクトがトレードオフになる必要は無い。投資家に低いリターンを求めると投資をしてもらえないことから、持続可能なインパクトは経済的自立性に基づくべきである。市場がスケールアップされた解決策に対しプレミアムを支払うことが可能であり、インパクトとリターンは両立可能。

2-7. 総括：渋澤健（共同議長）



渋澤健共同議長は、フォーラムでの多様な意見が一見ばらばらに見えても、実際には共通の目標（北極星）を見ていると強調し、「コレクティブ・インパクト」の意義を再認識したと伝えた。世界情勢が混乱し、資本主義や民主主義に亀裂が入る中、渋沢栄一の言葉「正しい道理の富でなければ持続しない」を引用し、倫理的な資本主義の必要性を訴えた。また、一つの企業だけではグローバルヘルスの課題を解決できないため、各自が主体性をもって役割を果たし、協力して取り組む重要性を示した。最後に「スターウォーズ」のジェダイを例えに使い、暗い状況でも希望を持ち、誰も取り残さない社会を実現するために共に歩んでいこうと呼びかけた。

2-8. 閉会挨拶：鈴木秀生（内閣官房健康・医療戦略室国際保健担当大使）



鈴木大使は、従来公的セクター中心だった国際保健分野に民間資本やビジネスが参入する意義を強調し、多様なステークホルダーが協力して公共政策を進めることの重要性を強調した。

Triple I の活動により、国際保健におけるインパクト投資は理論から実践段階に入っており、

Triple I を継続的に推進していくことによって、日本が同分野で国際的なリーダーシップを発揮し、自由と民主主義の促進、国際社会の平和と発展に貢献していきたいという考えを示した。

3. 第2部 ネットワーキングレセプション

3-1. 挨拶：友納理緒（内閣府大臣政務官）

友納理緒・内閣府大臣政務官は、自身の看護師経験やエチオピアでの保健現場視察



を通じて、グローバルヘルスへの貢献の重要性を強く実感したと述べた。また、日本がG7やG20で国際保健・UHC達成に向けて議論を先導してきたことを紹介し、その中で民間資金動員のための「Triple I」が立ち上げられ、これまでの1年半の活動により、参加機関が37から

100以上に増加したことを報告した。さらに、インパクト測定・管理（IMM）の重要性を強調し、今後この分野がビジネスとしても魅力的になることに期待を示した。

3-2. 挨拶： Francesco Saverio Ambrogetti (UNICEF, Principal Advisor)



Francesco氏は、日本が戦後 UNICEF に支援を受けていた世代の記憶から同基金への信頼が強く、現在の日本がグローバルヘルスやインパクト投資推進を通じて世界に大きな貢献をしていることを評価した。COVID-19 への対応を通じて、保健分野における民間企業のテクノロジー、物流、迅速な対応力の重要性を改めて認識したと述べた。また、倫理的資本主義の重要性について、マハトマ・ガンジーの言葉を引用して、「資本自体が悪ではなく、その誤った使い方が問題である」ことを示し、持続可能な保健ソリューションのためには、より多くの資本が必要だと強調した。